

次第締切といたしますのでお早めにお申込下さい。

(2)「懇親会」の申込方法

シンポジウム参加申込(参加費4,000円)と同時に、懇親会参加費(4,000円)の合計8,000円を添えて下記宛「現金書留」でお申込

下さい。

参加申込先: ☎100 東京都新宿区四谷一丁目無番地
社団法人 土木学会内
第4回水資源に関するシンポジウム事務局
電話 03-3355-3441, 内線 162
Fax. 03-5379-0125



真木太一・鈴木義則・嶋田福也・
早川誠而・泊 功編著

「農業気象災害と対策」

養賢堂発行, 1991年,
345頁/4,738円
(本体 4,600円)

人類の歴史の中で、食糧の安定供給が、生命の維持に必須であったことは勿論であるが、今般、日本農業気象学会の第一線の研究者が農業気象災害全般とその対策を刊行され、積極的に取り組まれるようになったことは意義深い。この出版は、学際的事項を含みまとめたものである。これに関して1992年ブラジルで環境に関する国際会議が開かれることもあって、このような好著の刊行は時宜を得たものである。類書としては、内嶋善兵衛氏の「ゆらぐ地球環境」(1990)、谷山鉄郎氏の「地球環境保全概論」(1991)。がある。

そもそも、地球的規模から考えると、ユーラシア大陸の東岸に位置する日本は、特に日射、温度、風、雨の面で、かなり変化に富むので、水と光の自然の恵みの中で育つ農作物は影響を受け、その変化の対策は必要となる。

内容は、第一章では、総論に相当する災害の定義と関

連する諸問題、ならびに、防止対策概要を論じ、第二章は、各論、第三章は、異常気象の動向、第四章は、現在の環境問題を述べている。

しかし、優秀な研究者の著述であるから、個々の災害の諸問題を経験的、行政的に羅列するだけでなく、災害の生物的、物理的な支配原理と思索哲学及び災害支配原理の仮説と実況の比較検討の態度をも論じ、科学的主張をして欲しいと思うのは、本書は、気象災害の基本的著述と考えるからだろうか。更に欲を云えば、天気予報(特に長期予報)論にふれて欲しかった。又、編集長が苦勞し大事な図版であると思うが、23頁の図I-8は、158頁図IV-57と全く同一であるので、紙面節約上削除してもよいのではないか。

以上本書を読んでの印象であるが、本書は先端的な好著であるばかりでなく、気象学を学際的な面を含め、広く理解しようと志す方は、これを一つの手本とする立派な価値がある。現今の地球環境変化が叫ばれる時代を迎えては、非常に大切な解説書である。これを土台にして、自然環境を更によく理解し、この方面の研究者が一層、増加し発展することを切望する。

いろいろと批判めいたことを申しましたが最先端の優秀な研究者や実地関係の方々、是非一読をされることを積極的にお勧めします。(九州大学 坂上 務)